

【 目的 】

この度、産婦人科医の視点から子宮頸がんを予防するためには、子宮頸がんの原因となりうる HPV 感染に対して性行為の相手となる男性パートナーにも HPV ワクチンを実施すべきと考え、2025年4月1日より当院で男性へのHPVワクチンを実施することにいたしました。

【 ヒトパピローマウイルス感染症とは 】

ヒトパピローマウイルス(HPV:Human Papillomavirus の略称)は、主に性行為によって感染するウイルスです。性行為を経験する年頃になれば、男女を問わず多くの方が HPV に感染します。ウイルスの遺伝子型は 200 種類以上あり、ほとんどは問題を起こしませんが、その一部は男性では陰茎がん、女性では子宮頸がん、男女共通では中咽頭がん、肛門がん、尖圭コンジローマなどの疾患の原因になることが分かっています。

【 男性に HPV ワクチンを接種する目的 】

① 男性のがん(中咽頭がん、肛門がん、陰茎がん)を直接的に予防

- ・「男性特有のがん:陰茎がん」の約半分がHPV感染によるものであり、その 76.7%が No16 又は No18 の 2 種類の HPV によると報告があります。ワクチンはこの2種類をターゲットにしています。
- ・「中咽頭がん」の 50%がHPV感染(このうち 89.6%が No.16、1.7%が No.18)によるものと報告があります。ワクチンはこの2種類をターゲットにしています。
- ・「肛門がん」のほとんどがHPV感染により、更にその 87.2%が No16 又は No18 の 2 種類によるものと報告があります。この 2 種類をガーダシルはターゲットにしています。

② 女性のがん(子宮頸がん、中咽頭がん、肛門がん)を間接的(性行為による感染)に予防

- ・「女性特有のがん:子宮頸がん」:(2019 年の罹患者 17200 人⇒約 75 分に1人、死亡は 3000 人⇒約 3 時間に 1 人のペース)。女性に接種するワクチンは No16 及び No18 の2種類をターゲットにしています。

【 世界の男性への HPV ワクチン接種状況】

・HPV ワクチンは世界 141 か国で公的接種の対象となっており(2024 年 1 月時点)、そのうちアメリカ、オーストラリア、カナダ、イギリスなどを含む 59 か国においては男性も接種対象となっています。日本を除く G7 諸国では男性への定期接種が導入されています。

【 HPV ワクチン接種の位置づけ】

・予防接種には、定期接種(基本的に自己負担はありません)と任意接種(基本的に自己負担が発生します)があります。女性へのHPVワクチン接種は定期接種、男性へのHPVワクチン接種は任意接種となっています。

現在、男性を定期接種の対象に加えることについて厚生労働省で検討されています。

【 HPV ワクチンの種類 (自費の場合の値段)】

・**サーバリックス**(2 種類の HPV 感染を予防):自費なら約 5~6 万

:No.16、No.18 をターゲット(頸がん予防率:約 70%)

・**ガーダシル**(4 種類の HPV 感染を予防) :自費なら約 5~6 万

:No.16、No.18、他2種類のコンジローマ関連をターゲット(頸がん予防率:約 70%)

・**シルガード 9**(9 種類の HPV 感染を予防):自費なら約 10 万

:No.16、No.18、他2種類のコンジローマ関連、更に他のがん化しうる 5 種類の HPV をターゲット(頸がん予防率:約 88%)

【 国内における認可された HPV ワクチン】

国内で認可され使用されている女性への HPV ワクチンには 2 価、4 価、9 価の 3 種類がありますが、そのうち男性への接種が承認されているのは 4 価ワクチン(商品名:ガーダシル)のみです。現在、男性への接種は定期接種ではないため、費用は接種者が全額負担となります。

・**ガーダシル** :2020 年から男性へ適応が認可されています(接種費用は自己負担)。

・**シルガード 9** :製薬会社から適応求め現在申請中。現状接種そのものは可能だが、男性は未承認のため副作用が出た時に救済処置がうけられない。

★当院では女性に対しての HPV ワクチンはこのシルガード 9 を実施しています。

★【**重大な注意点**】 もし今後「**シルガード 9 の男性への適応**」が認可された場合、ガーダシルを実施している課程で、途中からガーダシルからシルガード 9 に切り替えることはお勧めできず、最後の3回目までガーダシルを実施することになります。

＊＊ 4 価ワクチン(ガーダシル)の接種スケジュール ＊＊

女性の接種スケジュールと全く同じです。

1 回目のワクチン接種から 2 カ月の間隔をおいて 2 回接種を行った後、1 回目の接種から 6 カ月の間隔をおいて 3 回目の接種を行います。1 年以内に接種を終えることが望ましいとされています。

＊＊ 当院における男性への HPV ワクチン接種(ガーダシル)にかかる費用 ＊＊

当院での HPV ワクチン接種にかかる費用は5万(税込み)で、その内訳は1回目が2万円、2回目および3回目が1万5千円となっています。

＊＊ 日本の12~16歳の男性へのワクチン接種の実施状況(2020年以降、接種可能) ＊＊

実施率: 約 1.6%(2025年2月の時点):ガーダシルのみ

最高接種率の自治体は東京中野区で約 7%です。

**** HPV ワクチンを受けた方へ ****

以下のような副反応が起こった際は、医師に申し出てください。

主な副反応

- 頻度 10%以上 =注射部位の痛み・赤み・腫れ
- 頻度 1~10%未満=頭痛、注射部位のかゆみ、発熱
- 頻度 0.1~1%未満=めまい、腹痛・下痢、注射部位の出血・内出血など
- 頻度不明=局所の痛みと熱を伴った赤い腫れ、リンパ節の腫れ、おう吐、筋肉痛、寒気

まれな副反応

- アナフィラキシー反応(呼吸困難、じんましん等)
- 気管支痙攣(発作的な息切れ等)
- ギラン・バレー症候群(手や足に力が入りにくい、しびれ)
- 血小板減少性紫斑病(鼻血、歯ぐきの出血等)
- 急性散在性脳脊髄炎(まひ、知覚障害、運動障害等)

○健康被害が発生したら

4 価 HPV ワクチンを適正に接種したにもかかわらず、健康被害が発生した場合には、その内容、程度に応じて「医薬品副作用被害救済制度」により治療費等の給付金が受けられる場合があります。その場合は**独立行政法人医薬品医療機器総合機構** に依頼いたします。

